

国立大学法人兵庫教育大学教材文化資料館平成25年度後期展

I ♥ 和算

開館時間:

平日 8:30~22:00

(※1/17のみ 8:30~17:00)

土日祝 10:00~17:00

休館日:(附属図書館に準ずる)

11/16、12/28~1/5、

1/18・19・28、2/25・26

※臨時に休館する場合があります。

附属図書館HPをご確認ください。

<http://www.lib.hyogo-u.ac.jp>

入館無料

アイラブ和算展

2013.10.1(Tue)-2014.2.28(Fri)



測りまじり





裁ち合わせ



杉算



油分け算

※ 算は江戸時代中期に始まりました。

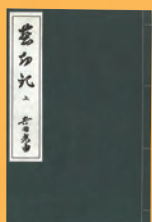
和算を体験しよう！

明治になって西洋の数学が入ってくるまで、日本には独自に発展した数学がありました。西洋の数学「洋算」と区別して、明治以前の日本の数学を「和算」と呼びます。

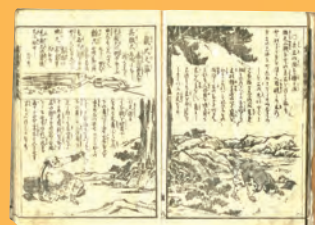
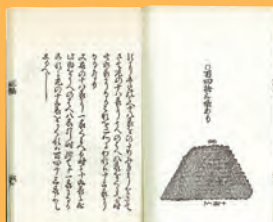
最初に数学が日本に伝わったのは飛鳥・奈良時代、仏教の伝来と同じ頃といわれていますが、江戸時代になって、和算は大きな発展を遂げます。その一翼を担ったのが、吉田光由よしたみつよしによる『塵劫記』(寛永4〔1627〕年)の出版でした。この本の中には、九九・そろばんなどの基本的な計算問題、米の売買・利息計算・土地の面積計算など生活に即した実用的な問題に加えて、「油分け算」「小町算」などの数学パズル的な問題も載せられていて、何度も改訂版が出るほど大変な人気を得たということです。

『塵劫記』最後の改訂版では、解答を載せない挑戦問題(「遺題」と呼ばれます)が12問掲載されました。この挑戦に応じた者が、その解答と更に新たな遺題を本にして出版しました。これ以降、遺題に解答し、新たな遺題を提示すること(これを「遺題継承」と言います)が流行します。遺題の解けた人が新たな遺題を作るわけですから、遺題はどんどん難問になり、それを解くためにますます高度な数学が必要となっていました。これが日本における本格的な数学研究の発展に大きく寄与することとなります。

本展では、『塵劫記』をはじめとした和算書の中から、いくつかの面白い問題を現代文に直して、また、内容や挿絵などもわかりやすいように変更・修正して紹介しています。江戸時代の庶民が頭をひねった問題に、是非とも挑戦してみてください。



『塵劫記』吉田光由 寛永8(1631)年(復刻)



『新撰訂正算法稽古図会』 暁鐘成 天保2(1831)年

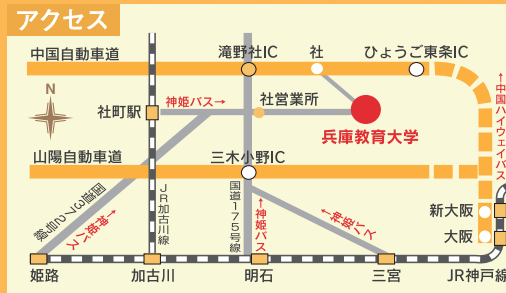
国立大学法人兵庫教育大学教材文化資料館平成25年度後期展

I ♥ 和算
アイラブ和算展
2013.10.1(Tue)-2014.2.28(Fri)



お問い合わせ

兵庫教育大学教材文化資料館 <http://www.hyogo-u.ac.jp/museum/>
〒673-1494 加東市下久米 942-1 TEL 0795-44-2362 FAX 0795-44-2364 ※平日9:00~16:00のみ



車 : 中国自動車道滝野社ICから約15分
バス : JR三宮駅・明石駅・姫路駅から神姫バス「社営業所」乗り換え「兵庫教育大学前」下車
教材文化資料館は附属図書館に併設しています。